

# 尼崎文化協会より

第11号 平成三十年七月下旬発刊

## 1、新会長挨拶



会長 和田 桐山

本年度より会長を仰せつかりました和田桐山です。

設立より 70周年を経た尼崎文化協会、その成り立ちは尼崎の歴史を語る史談会がもとになっているということを聞き及んでおります。

70年が経過し次の 30年に向かって尼崎文化協会の目指す文化は何か、社会組織ごとに固有の文化があるとされ組織の成員であるためには、その文化を身に付けるということ、という定義があるようです。

文化協会 100 年に向かって何をしてくのかこの一年考えてまいりたいと思っております。折しも尼崎の歴史の象徴でもありますお城の天守が再建されます。文化協会の歴史に新しいページが加わります。

これを核とし、尼崎の隅々まで目を凝らし尼崎を再発見し、より多くの市民の方々にこの街のことをもっと知っていただけるような運動をすることも文化協会の役割ではないかと思います。協会だより 5 号で宮崎副会長が書かれていた文化の芽を見出しそれを大きくなものへと発展させることに皆様と共に力を傾けてまいりたいと思います。

## 2、平成 30 年度通常総会及びその後の行事

(1) 通常総会は、5月 15 日(火)午後 1 時 30 分より、尼崎商工会議所に於いて開催された。

①議事内容は、会員全員に配布された議案書のとおりであり、(欠席者には後日郵送)各項目とも承認された

②役員体制については、2年任期制の中間年度に当たるため、欠員補充を中心に次の通り選任された。

イ、会長 和田 桐山(幹事長も兼務)

ロ、会計 田中 正喜

ハ、監査(1名補充) 石橋 正久

二、他は従前どおり

## (2) 尼崎薪能への協賛

昨年より 8 月開催が、5 月開催となり、本年は 5 月 20 日(日)に大物公園で開催された。 永年に亘る当協会協賛行事であり、玉垣会長代行が出席し、尼崎市副市長はじめ地元の代表者と共に火入れ式参加した。

天候に恵まれ多くの参会者で盛大に行われた。

## (3) 阪神南文化振興団体協議会の総会

6 月 15 日(金)午前 10 時より尼崎市総合文化センターに於いて開催された。

玉垣会長代行が、和田会長の代理として出席した。

審議の際、同協議会の今後の事業としての「地域文化を考える会」(来る 11 月 17 日於伊丹市)に当協会よりも出席要請があった。

## (4) 尼崎市市民運動推進委員会総会

7 月 2 日(月)午後 2 時より 尼崎市立すこやかプラザにおいて開催された。田中会計が、出席した。

## 3、今後の事業予定

### (1) 第 32 回尼崎市民囲碁大会

当協会が後援しております囲碁大会が開催されます。

8 月 5 日(日)午前 9 時 30 分より 園田学園女子大学 開花亭

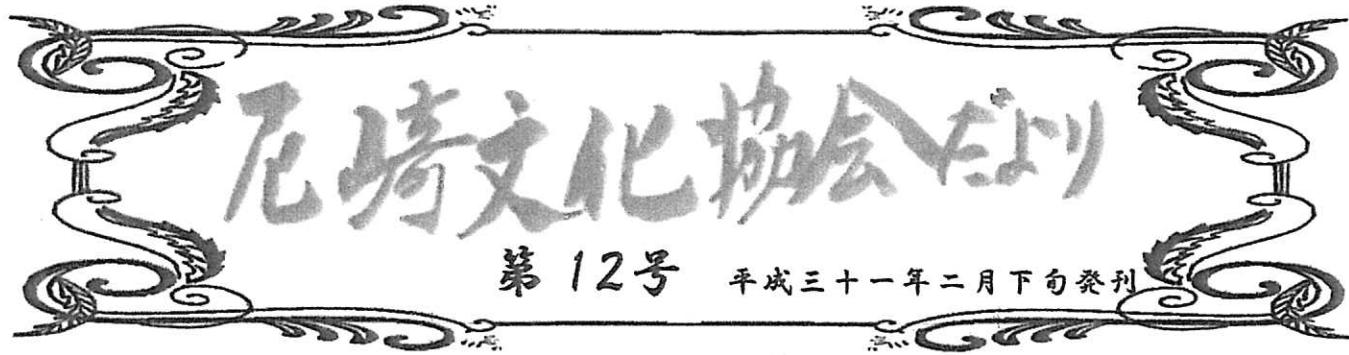
(2) 当協会協賛の近松祭が、10 月 28 日(日)に広済寺で開催される。幹部役員(2 名程度)の出席が求められている。

(3) 近世尼崎藩の藩主を務められた青山諸侯の事績を知るための勉強会を今秋に開催する予定である。又、11 月 7 日に美濃文化協会 3~40 名ほどが、来尼される模様。 同グループは、午前中は左門殿川、尼信会館見学後、午後から尼崎城の再建状況視察、寺町散策を計画されていますので、現在上記勉強会と同時開催で、7 日午後大覚寺で青山家の事績を岡本副会長に講話していただく計画で検討中。(詳細は追って、通知する)

(4) 契沖顕彰短歌大会(来年 2 月開催予定)に例年通り協賛の予定であり会員有志よりの短歌応募が望まれる。 (応募用紙同封、公募期限 9 月 30 日)

編集 玉垣 喜三

田中 正喜



会長 和田 桐山

本年 2019 年は大きな祝い事が二つあります。日本国民にとって新天皇が即位され、元号が新しくなること、一つは尼崎市民にとって 145 年ぶりに尼崎城が再興されオープンすることです。後者は考えもしなかった、まさに降ってわいたような出来事だと思います。

これを千載一遇のチャンスと捉え、お城を中心とした文化の薫る町、多くの方が訪れて下さる、素敵な街に市民の力を結集できるような活動をしていきたいと考えます。

昨年の暮れ、尼崎藩 2 代から 4 代にかけて城主でありました青山家ゆかりの岐阜県郡上八幡市と兵庫県篠山市を訪れ、それぞれの町の観光協会や文化協会の方々とお会いし種々のお話を聞いてまいりました。

結果、郡上の観光協会より郡上踊りを尼崎城で披露したいとのお話をいただき、また篠山の文化協会よりデカンショ踊りをご提案いただき現在市当局と実現に向け、協議を重ねております。今後双方との文化交流や物産交流も進めてまいりたいと考えております。

また現在お城近辺に関しても市当局、民間双方の開城後の人々の流れを作り出す方策などが種々考えられているようです。当協会としても双方の間に立ち尼崎のイメージの向上に少しでも役に立てるような動きが必要になろうかと思います。今年は特にお城が再興された年、今までの歴史に関連した動きに加え新しい人の流れを作り出せるような文化本来の意味合いも含めた事柄、行事について発信してゆくことも当協会の仕事の一つではないでしょうか。皆様会員各々のお力をおかしくださいようお願いいたします。

## 2、協会だより第 11 号発行 (H30.7 月下旬) 以降の事業報告

(1) 10 月 28 日 (日) 当協会協賛の「近松祭」が広済寺で開催され、和田会長、宮崎副会長、田中会計、関幹事が出席した。

(2) 11 月 7 日 (水) 美濃文化総合研究会のメンバー約 30 名が、尼崎城再建の状況などの見学研修のため来尼あり、当会としてこれをお迎えし連携を深めることとした。当協会よりの参加者は 7 名であった。

(3) 11 月 17 日 (土) 「阪神北から五国を考えるシンポジューム」が伊丹市に於いて開催され和田会長、玉垣会長代行、宮崎副会長が参加した。来年は、東播地区が担当することとなる。

(4) H31 年 1 月 11 日 (金) 新年 3 社初詣旅行を実施した。

地元貴布祢神社→近江建部神社→甲賀油日神社の 3 社で終日天候に恵まれ有意義な初詣であった。

(5) 1 月 12 日 (土) 当協会幹事の関賢二氏が逝去され、1 月 14 日 (月) エテルノ西宮で葬儀告別式が行われた。尼崎文化協会の功労者であり、役員一同の名で次の弔意を表すこととした。

## 喪主 関信子様

ご主人関賢二様のご逝去に当たり、謹んでお悔やみ申し上げます。

関賢二様は、尼崎文化協会の長い歴史の中で、多くの期間、副会長として協会の維持・発展に尽力されました。特に七十周年事業の一つであった「記念誌」の発行に当たっては、編集の責任者として過去の豊かな経験を十二分に發揮され、歴史に残る立派な記念誌を作っていました。

然し、その後は体調をくずされ養生の日々を送っておられましたが、本日このようなお別れの日を迎えることとなりました。まことに残念でなりません。

茲に関賢二様のご功績を讃え、深く感謝の意を表しますと共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。安らかにお眠りください。

平成 31 年 1 月 14 日

尼崎文化協会役員一同

(6) 2 月 3 日 契沖顕彰短歌大会が園田学園構内 AV ホールにて開催され、次の方が尼崎文化協会会長賞を受賞されました。

(一般の部) 奈良県天理市 大谷 和子

母の手は柔らかだったか手をつなぐ施設の人に歩み合わせる

(生徒の部) 尼崎市立園田東中学校 2 年 森本 晴也

子供達じょんけん大会好き過ぎて今ならなりたい千手觀音

(児童の部) 尼崎市立 難波小学校 5 年 永井 志歩

ねこの鼻まどを開けたらピクピクと金木犀と気持ち良い風

## 3、今後の事業予定

- |         |       |         |       |
|---------|-------|---------|-------|
| (1) 監査会 | 4 月上旬 | (2) 役員会 | 4 月下旬 |
| (3) 総会  | 5 月中旬 |         |       |

編集 玉垣 喜三  
田中 正喜

# 尼崎文化協会より

第13号

令和元年七月下旬発刊

## 1、新副会長ご挨拶

副会長 喜多 敬

「アウクスブルグ市（独）との姉妹提携60周年記念式典に参加して」

この度、尼崎文化協会副会長に選任されましたが、微力ながら協会発展のため尽くしたいと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

今年5月8日から5泊7日の行程で尼崎市国際交流協会の主催でドイツのアウクスブルグ市へ一行16名に家内同伴で行つきました。私たちにとっては40年ぶりのア市訪問になります。別便では稻村市長、波多市議長、松本教育長もア市に来訪されていました。そもそも尼崎市とア市は日独間で最初に姉妹都市として結ばれた仲で、今年がちょうど提携60周年にあたります。現地のア市では盛大に歓迎していただき「日本の春週間」というテーマで市役所の黄金の間にでの式典に合わせ市立尼崎と双星高校生の各15名の管弦楽団がア市高校生とのワーグナー曲の合奏。他に広大で且つ本格的な流水式の日本庭園の開放やもちつきや屋台、和太鼓のお祭り、そしてヤンマーディーゼルが寄贈されたルドルフ・ディーゼル記念碑の見学を。また尼崎市の文化や風物詩をパネル化してア市市民にPRして下さっていました。かつて50年前、私は大学卒業後にドイツ有数のエンジンメーカーのMAN社に在籍し2年間ア市に単身で住んでいました。そのころの日本人はたったの5名ばかりでした。それが現在はなんと約200名に上ると伺いました。この日もこの時とばかりに知人ともども大勢がイベント会場にお越しになり、ドイツ人と結婚されたりしてドイツ語を流暢に話される方が多く驚きました。またア市のみなさん方のゆかた姿が印象的で、両市民の親善交流の長きに亘る理解と深さがよく感じ取れました。

アウクスブルグ市はローマ皇帝アウグストゥスが紀元前15年に駐屯地として興したことによ来し、ドイツでは1年違いでトリアーに次ぐ2番目に古い街とされています。現在の人口は約29万人で、バイエルン州では3番目に大きな都市です。周囲を城壁で囲まれ、昔ながらの美しい噴水や教会、きらびやかな大広間をもつ市庁舎など、歴史的建造物の数々が観光に訪れる人を飽きさせません。みなさんも一度行ってみませんか。

（喜多副会長は、5月24日皇居にて瑞宝双光章を授章されました）

## 2、平成31年度（令和元年度）通常総会及びその他の行事について

### （1）平成31年度（令和元年度）通常総会開催

去る5月9日（木）午後1時30分から、尼崎商工会議所7階会議室にて、当協会通常総会が開催されました。まず、開会に先立ち、これまで当協会に多大の貢献をされた市田順彦氏（元会長）と関 賢二氏（元副会長）のご逝去を悼み黙とうした後、和田桐山会長のご挨拶があり総会が始まりました。総会は、和田会長が議長となって、次の議案が審議され、それぞれ承認可決されました。

- 第1号議案 平成30年度事業報告ならびに一般会計収支決算の承認について  
第2号議案 平成31年度（令和元年度）事業計画（案）ならびに一般会計収支予算（案）の承認について  
第3号議案 会則改正について  
会則条文の字句を一部修正、変更しました。

- 第4号議案 役員改選について  
このたび新たに役員に選任されたのは、次の方々です。

副会長	玉垣 喜三（会長代行より）
副会長	喜多 敬（幹事より）
事務局長	田中 正喜（会計より）
会計	藤田 朝代（新任）
幹事	田中 あき子（新任）
同	森 清一郎（新任）
同	六島 大（新任）

上記以外の役員は、再選されました。

なお、芝 芳子氏が新任で事務局員に就任されました。

### 第5号議案 その他について

和田会長から、当協会のホームページ作成、写真展の開催、二代目尼崎城主の青山氏関連で郡上市や丹波篠山市との交流会の開催計画などについて説明がありました。

以上で通常総会を終了した後、講話会として、松井建設株式会社の南 智宏氏から、「尼崎城再建工事よもやま話」と題して、本年3月に完成した尼崎城天守閣再建に関する苦労話を、詳細な資料をもとにご説明頂きました。

その後は、有志による恒例の懇親会を開き、予定通り午後4時30分ごろ散会しました。

### （2）尼崎薪能雨天中止

5月20日（月）に当協会が永年後援している尼崎薪能（第40回）が、大物川緑地公園で開催予定であったものの、雨天のため中止となりました。本年の薪能の演目は、尼崎大覚寺（住職は副会長の岡本元興氏）と関係の深い「芦刈」という事で、次回に期待したいと思います。

### （3）尼崎城一般公開記念「踊るあまがさき～尼崎芸能祭～」が開催される

去る5月25日（土）に、尼崎城芝生広場で「踊るあまがさき」が開催されました。

これは、本年3月の尼崎城天守閣一般公開を記念して、尼崎城址公園管理運営企業体、尼崎市ならびに一般社団法人あまがさき観光局の共催で開かれたイベントで、当協会も参加し、和田会長の肝いりで、一般社団法人茶道裏千家淡交会阪神青年部OB会のお茶席が用意されたほか、芝生広場では元尼崎藩主であった青山家とゆかりのある郡上市から郡上踊り、さらに丹波篠山市から篠山デカンショ節保存会の皆さんのが来場され、ゲストとしてそれぞれ伝統あるパフォーマンスを披露されました。

また、尼崎邦舞協会、観世流瓦照苑、関西阿波おどり協会 神戸ちるど連・はなしか連、あまがさき城音頭（LUNA with Friends）などの皆さんのが、それぞれ踊りや歌を披露されました。

### （4）当協会役員が春の叙勲ならびに褒章を受章！！

このたび令和元年度春の叙勲ならびに褒章で、次の方々が受章されました。まことにおめでとうございます。

当協会副会長 喜多 敬氏 瑞宝双光章

多年にわたる社会奉仕活動に貢献された功績により。

当協会幹事 九鬼 正隆氏 藍綬褒章

多年にわたる更生保護に貢献された功績により。

#### (5) 阪神南文化振興団体協議会理事会兼総会が開催される

6月21日(金)午前10時より尼崎総合庁舎別館2階大会議室に於いて上記理事会兼総会が

開催され、玉垣副会長が、和田会長の代理として出席しました。

議事内容については、6月26日開催の三役会議に於いて報告されました。

### 3、今後の事業予定

(1) 尼崎城再建に伴い、9月13日(金) 夕刻より尼崎城下に於いて「尼崎城薪能」が、開催されるととなりました。細部は、市の公報により、近く報道されますが、希望者は、ご参集ください。

(2) 当協会の協賛で10月5日(土) 13時から寺町大覚寺能舞台および庫裡内の和室で50から100名(外国人観光客も含む)を対象として、お能の舞囃子鑑賞・体験(観世流)と茶道の体験をしてもらいます。この事業の目的は、寺町大覚寺にて、市内外の人に向けて日本文化の体験講座を実施する事で、尼崎の観光資源の活用・周知を行い、尼崎の将来的な文化的発展の下地とするものです。又この事業の主催は日本文化普及の会{代表 和田正明(桐山)}ですが、2019年度『ひょうごの文化発信リーディングプログラム支援事業』に認定され補助金の交付対象となる事業で、是非会員の皆様のご参加をよろしくお願いします。

※参加費 1名 2000円(茶菓代込) 希望の会員は、事務局 田中正喜宛FAX:  
06-6499-0718、携帯電話: 090-8480-3319等へ連絡お願いします。

(3) 2019年度「兵庫県地域文化を考えるシンポジウム」が10月24日(木)高砂市に於いて開催され、当協会よりも参加予定です。

(4) 当協会協賛の近松祭が、10月27日(日)に広済寺で開催され、幹部役員(2名程度)の出席が求められています。

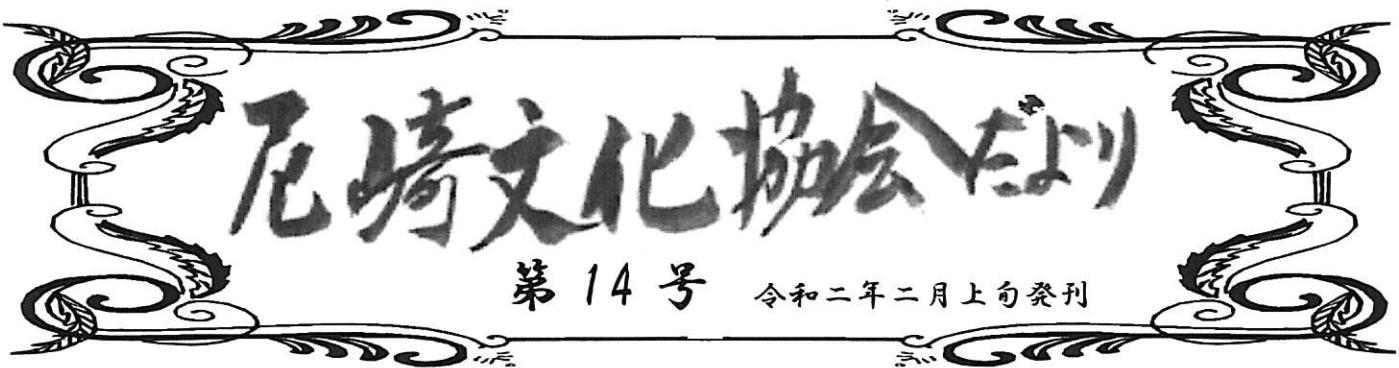
(5) 契沖顕彰短歌大会(令和2年2月2日園田学園女子大学3号館2階AV教室にて開催予定)に例年通り協賛します。当協会員有志の短歌応募を募集しています。  
応募要領は、添付別紙をご参照ください。(募集期限は9月30日)

#### (6) 第33回尼崎市民囲碁大会

当協会後援囲碁大会が、下記の通り開催されます。

8月4日(日)午前9時30分から 園田学園女子大学 開花亭にて

編集 宮崎 恒彰 田中 正喜 芝 芳子



## 1、令和2年新春初詣報告

副会長 玉垣 喜三

当協会恒例の初春初詣は、去る1月9日（木）に開催され、参加者33名。最初に尼崎市の「貴布禰神社」を、次いで高砂市の「石の宝殿生石神社」「大鳥居の鹿嶋神社」を夫々参拝し、昼食を稻美町の「ながさわ」でとり、帰途「明石城跡」を見学、最後に「福寿 神戸酒心館」で試飲する日帰り旅行であったが、近年稀なる思い出の多い旅となつた。

最初の貴布禰神社では、江田宮司様より「関西学院大学のアメフト」に関する話があり、近年の関学大の勝利の歴史は、貴布禰神社での選手父兄会による「必勝祈願」より始まっており、その勝利記念樹（枝垂桜）は、境内一杯になったと嬉しいお話を聞くことが出来た。

次いで参拝した生石神社は、日本三奇の一つである「石の宝殿」をご神体とする神社であり、文化協会としては10年前にも初詣した記録のある神社であったが、本年は、その後和田会長と「陶器」を通じ、深いご縁の出来た神社であると聞き、大変興味と期待をもって参拝することとなつた。到着予定の10時30分に神前に行くと東宮司様はじめ和田会長と親交のある伊藤様（ヤング開発社長）の出迎えを受け、説明を受けた後、ご神体の石の宝殿を拝礼し、次いで社務所に案内され、丁重なる設いの下、お菓子とお抹茶を頂戴し、終了後和田会長が神社に奉納された素晴らしい「お抹茶々碗」を拝見、その席で全員の記念写真を撮り下山、極めて有意義な初詣となつた。

その後、近くの鹿嶋神社を参拝、若干遅い昼食を「ながさわ稻美町店」ですることになったが、その席上また和田会長とご縁のある友人より郷土名物のお菓子の差し入れがあり、会長の人脈の広さを感じた次第である。

そして、尼崎城と深い関係のある「明石城跡」を見学し、最後に「福寿・神戸酒心館」（ノーベル賞公式行事で出された日本酒の醸造元）にて試飲、各自お土産を購入して予定通り尼崎に帰ってきた。

以上、いさか長い記録文となつたが、近年稀なる思い出多く楽しい初詣であったことを報告し、併せて尼崎文化協会の今後の発展を祈る次第である。

## 2、令和元年度通常総会後の行事

### (1) 尼崎城薪能について

尼崎城再建に伴い、去る9月13日（金）夕刻「尼崎城薪能」が開催された。場所は、尼崎城の北側の堀に仮設舞台を作つての薪能であったが、1200名の観客が集まり、意義深い催しとなつた。大物で実施されて来た尼崎薪能（当協会協賛）との関係が今後の課題となる。

### (2) あまがさき de 日本文化体験（当会後援）について

去る10月5日（土）13時30分より、場所は月峯山大覚寺において①能楽体験②茶道体験③舞囃子鑑賞が実施され、外国人も含め約80名が参加された。当会から和田会長、玉垣、宮崎副会長、加島、九鬼理事、田中事務局長、藤田会計、芝事務局が参加。

「能楽体験」では、実際に能面を着用して能舞台を歩いたり、能装束を着たり、鼓で音を奏でたり、「舞囃子鑑賞」では尼崎ゆかりの「船弁慶」等の鑑賞を行い、体験後は茶席でお茶を一服いただいた。日ごろ体験できない日本文化を体験できた。

### (3) 「兵庫県地域文化を考えるシンポジウム」に参加報告について

去る10月24日（木）高砂市文化保険センターで開催された「シンポジウム」に当会より2名（玉垣副会長、石橋監査）が参加した。

今回は、東播磨地区の担当であり、基調講演は、玉岡かおる氏（作家）を講師として「ゆたかな播磨の時空をたどる—この地に受け継ぐ文化の遺産」と題して興味深い話であった。また各地区の文化団体（6か所）より夫々活動事例の紹介があった。阪神南地区は、西宮担当であり、人形浄瑠璃が紹介された。

令和2年は、但馬地区の担当であり、時期は11月17日（火）に開催予定である。

### (4) 大近松祭について

去る10月28日（日）に当協会協賛の「大近松祭」が廣済寺で開催され、和田会長、宮崎副会長が出席した。

### (5) 契沖顕彰短歌大会について

去る2月2日契沖顕彰短歌大会が園田学園構内AVホールにて開催され、次の方が尼崎文化協会会长賞を受賞されました。

（一般の部）和歌山県和歌山市 廣田 明代

爺ちゃんてどんな人だった中二聞く悪くも言えずやさしかったよ

（生徒の部）尼崎市立日新中学校 2年 大石 煌

風の音走る風景どこまでもラスト一周ラストスパート

（児童の部）尼崎市立 武庫小学校 5年 前田 桃花

弟が雷なるとへそかくすそのかわいさよいいつまでも

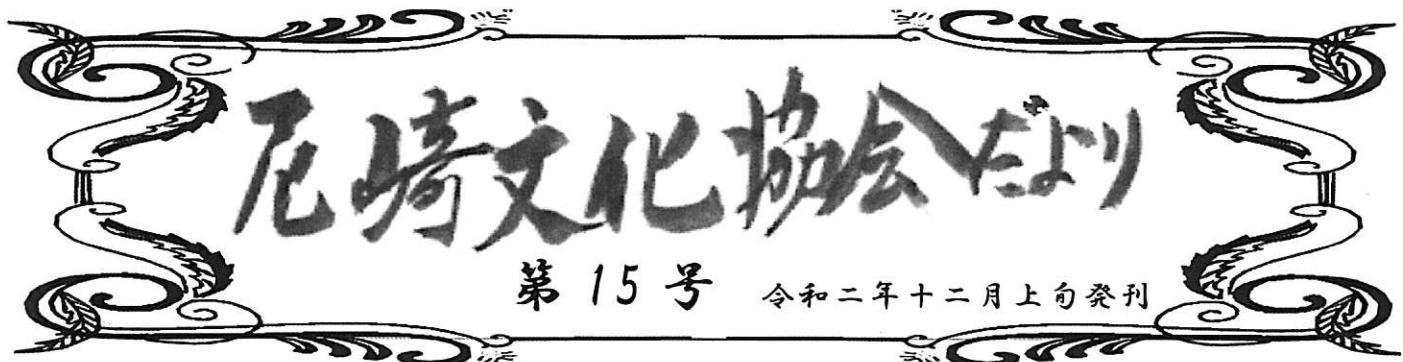
## 3、今後の事業予定

（1）監査会 4月上旬 （2）役員会 4月下旬

（3）総会 5月8日尼崎商工会議所

編集 宮崎 恒彰

田中 正喜



## 1. 『鯉伝説』一考

幹事 加島守

尼崎に存在するスサノオノミコトを祭祀する神社には、鯉にまつわる伝承が語られている。神崎・戸ノ内（尼崎市）、庄本（豊中市）は、産土神にスサノオノミコトをお祀りしているスサノオ神社です。椋橋総社伝説に「神代の昔、素戔鳴之尊が高天原から鯉に乗り、神崎の水門を経て、椋橋にご降臨されました」とある。また、奈良時代の僧侶行基さんにも、鯉にまつわる伝承が数多くある。行基さんが近畿各地で治水や架橋などの事績を多く残されてるので、猪名川の治水に関しての行基の靈験を示すためにも、伝承として語られたのであろうと思う。椋橋総社は「恋の宮」とも「鯉神社」とも言われている。崇神7年「椋橋総社伝承」には、次のような書が書かれている。行基さんが、戸ノ内と庄本の間の猪名川に橋をかけようとした。しかし大水で工事に着手するのが困難でした。そこで、行基さんは椋橋総社に祈願しました。すると鯉が集まってきて、堰を作り、水流を防いでくれたので、橋を架けることが出来ました。それ以来、庄本では鯉は氏神様のお使いとして捕らえず、食べることもしませんでした。

椋橋総社には、鯉伝説の説明板・鯉塚・鯉池があります。しかし、江戸時代には、行基さんが作ったこの橋は廃され「渡し」となりました。現在も庄本側に「渡しの燈籠」が残っています。

また、至徳元年（1384）に書かれた「治田寺縁起」には次のように書かれている。行基さんが、治田寺に参籠するため椋橋を訪ねて来ました。洪水で橋が流されてしまい船もイカダも出せず、村人が困っていた。すると「魚の橋」が出てきた。それは無数の鯉が水面に背を向けて浮かんだものです。行基さんはその鯉の背に乗って川を渡り、対岸の治田寺に行き参籠することが出来ました。村人達はその光景を見て驚き、「鯉をあがめ」それ以後、猪名川の上下 18町（2000M）の人々は「鯉の折衝禁止」を定め守ってきた。「戸ノ内素戔鳴神社縁起」にも同様に「魚の橋」のことが書かれています。

私も子供の頃、和歌山方面に家族旅行をした時の夕食に素晴らしい鯉の料理が出ました。両親が「私達の住んでいる地域は先祖代々、鯉は神様として崇拜しているので、食べることは出来ないのです。」と申し出て、食べなかつたこともありました。

鯉のご恩を忘ることのないように身近な大切なものは、鯉を図柄にしています。

藻川・猪名川・神崎川が合流する神崎の地先は、鯉の巣で昔は「鯉淵」と言われていました。神崎須佐男神社の大太鼓の台の四方に遊泳する鯉が彫られています。また、祭礼時の太鼓のかつぎ手の法被の背にも、鯉が染め抜かれています。

このように、鯉を大切に思い続け今も神崎・戸ノ内・椋橋では、鯉を食べない風習が残っています。伝説は各地域で数多くあると思います。このような、文化・歴史を次世代に伝承していく責任が我々には、あると思います。

## 2. 令和2年度通常総会（書面決議）後の行事

### （1）尼崎市市民運動推進委員会総会について

去る7月30日（木）午後2時10分より、小田北生涯学習プラザホールに於いて総会が行われ、規約の改正、実施事業報告、実施計画等の議事が承認。参加者は田中事務局長

### （2）役員会開催

去る9月28日（月）午後2時から尼崎総合文化センター2F喫茶プラボにて開催。

議事①新春初詣バスについては中止とし、貴布祢神社での初詣とする。②大物川薪能の参加 ③郡上八幡サミットの参加について（2名参加予定）出席者和田会長、玉垣、宮崎、喜多副会長、森理事、加島幹事、藤田会計、芝事務局、田中事務局長

### （3）大物川薪能について、

去る10月1日（木）午後5時30分より大物川公園にて開催。参加者は、和田会長、玉垣、宮崎、喜多3副会長、加島幹事、小川会員、藤田会計、田中事務局長

### （4）郡上八幡城ゆかりの城シンポジウムの開催

去る11月14日（土）12時30分より、ホテル積翠園に於いて開催。郡上八幡市長、尼崎市長、大垣市長の挨拶で始まり、落語寄席、郡上市文化財保護審議会の高橋教雄会長の基調講演「青山幸成、幸利及び延宝騒動」の後、郡上市在住の俳優の近藤正臣氏がコーディネーター、3市長がパネラーで、パネリディスカッション。テーマ「お城を活かした観光まちづくり」

参加者は和田会長、宮崎副会長、青山会員、田中事務局長。

### （5）第46回令和2年度「ともしひの賞」受賞

12月に兵庫県公館にて玉垣副会長が、兵庫県「ともしひの賞」を受賞。

◎「ともしひの賞」は、地域社会にあって長年にわたりひたむきな努力を続け、地域の文化の向上に貢献して、その活動と功績が著しい個人又は団体を表彰する賞。

## 3. 中止、延期行事

①大近松祭 ②県民文化コミュニケーション会合延期 ③三田市文化協会との交流

## 4. 今後の事業予定

（1）初詣 令和3年1月8日（金）午前10時20分境内集合、参拝時間午前10時30分～11時 於 貴布祢神社 尚、本年はバスによる初詣は行いませんので、直接現地へお越しください。添付返信はがきに出欠をご記入し、12月25日締切。

但し、コロナウイルスの状況によっては、中止とする場合があります。

### （2）契沖顕彰短歌大会について

令和3年2月14日 契沖顕彰短歌大会が園田学園構内AVホールにて開催予定。

### （3）その他予定

①監査会 4月上旬 ②役員会 4月下旬 ③総会 5月初旬 尼崎商工会議所

編集 宮崎 恒彰 芝 芳子 田中正喜